

□ (評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 3点×4≒12点

a 口 b ハ c イ d 二

問二 8点

(解答例)

A ①〇2点

B 〇1点

C 〇1点

笑いが伝染することで、

呼吸が深くなり、

からだ全体がはずんできて、

D 〇4点

共生態としてのからだがさまざまな局面で目覚めてくるから。(8点)

各加点要素の加点の条件

A 「笑いが伝染することぞ、」 (2点)

✖ 「伝染」が無かったら✖0点。

B 「呼吸が深くなり、」 (1点)

○ 「息が大きく吐かれる」も可○。

C 「からだ全体がはずんできて、」 (1点)

○ 「一緒にからだは動いてくる」も可○。

D 「共生態としてのからだはさまざま局面で目覚めてくるから。」 (4点)

※①〜③の3要素に点数を与える。ただし、③が無かったら①、②に得点を与えない。✖0点。

① 「共生態としてのからだは」 1点

② 「さまざまな局面で」 1点

③ 「からだは…：目覚めてくるから」 2点

問三 4点×2＝8点

X イ Y ハ

問四 4点

二

問五 5点

(解答) 今までは彼にとって実は「前」の世界が「なかった」ということ (29字)

※30字以内の抜き出しのため、これのみ正解

問六 8点

(模範解答例)

A○3点

今まで人や物を、映写されている映像のように平面的に見ていたが、「一つ一つ強い存在感のあるものとして、

C○3点

ずっと奥行きのある「世界」として見えるようになった。 (75字) (8点)

各加点要素の加点の条件

✳制限字数の半分以上書かなかった場合は以下の正解の要素があっても✳。無得点とする。

A「今まで人や物を、映写されている映像のように平面的に見ていたが、」(3点)

○「今まで人や物を、平面上に映写されている映像のように見えた」も可○。3点。

※①・②が組み合わせられて3点を与える。

①「今まで人や物を、映写されている映像のように……見えた」2点

※「映写されている」が無くても得点を与える。

②「今まで人や物を、……平面的に見ていた」2点

▲「人や物を」が無い場合は▲1点減点。

B「一つ一つ強い存在感のあるものとして、」(2点)

○「同じ存在という実質として」という言及も可とする○。

C「ずっと奥行きのある「世界」として見えるようになった。」(3点)

△「世界」がなく「奥行き」だけの言及は△2点。

八

問一 8 点 (2 点×4)

1 領分 2 惰性 3 依然 4 還元

問二 4 点

(模範解答例)

A 〇2 点

B 〇2 点

社会的な複雑性を縮減し、 生活態度を単純化すること。 (25 字) (4 点)

各加点要素の加点の条件

A 「社会的な複雑性を縮減し」(2 点)

※ 「社会的複雑性の縮減」について説明していないものは ×0 点。

B 「生活態度を単純化すること」(2 点)

※ 「生活態度の単純化」について説明していないものは ×0 点。

○理由説明の結び「くから」「くため」になっている場合、「くする戦略」も、可○。

問三 12 点

(模範解答例)

A 〇3 点

B 〇3 点

C 〇3 点

D 〇3 点

情報環境の中心が、 マスメディアではなく、 ネット利用のものに 変化してきている状況。 (40 字)

各加点要素の加点の条件

※四〇字以内で答える設問。一九字以下のものは以下の加点要素があっても、全体不可 ×0 点。

A 「情報環境の中心が」(3 点)

※ 「異変が起きている」のが「情報環境」であることを説明していないものは ×0 点。

↓ 「情報環境の変化により」など、前提として「情報環境の変化」があるようなものは不可。 ×0 点。

B 「マスメディアではなく」(3 点)

※ 「異変(＝変化)」のかつての状況として「マスメディアが中心であったこと」を説明していないものは ×0 点。

○「くではなく」のニュアンスは B に入っていないなくても、B 以外の要素を確認したうえで、そのようなニュアンスになっていればよい。

△ 「新聞やテレビ」のように、具体例の場合は、▲ 2 点減点で △ 1 点。

C 「ネット利用のものに」(3点)

※ 「異変(＝変化)」の近年の状況として「ネットが中心になっていること」を説明していないものは×0点。

△ 「携帯電話」などの具体例が入っているものは▲2点減点で△1点。

D 「変化してきている状況」(3点)

※ 単に「変化した」とせず、「徐々に」の意味合いを明確にして「変化してきている」としていないものは×0点。

問四 4点

ハ

問五 7点

ニ・ハ (完答)

問六 15点

(模範解答例)

A ○3点

懐疑的であることす、メディアの影響を発見し、

B ○3点

その中からメディアの問題点を指摘し、

C ○3点

代案の提案を積み重ねることす、

D ○3点

メディアも改善されるという

E ○3点

よい循環が生まれるから。 (80字) (15点)

各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

※**八〇字以内で答える設問。三九字以下のものは以下の加点要素があっても、全体不可×0点。**

A 「懐疑的であることす、メディアの影響を発見し」(3点)

※ 「メディア・リテラシーによる批判的態度」によって、「メディアの影響を発見する」ことを説明していないものは×0点。

B 「その中からメディアの問題点を指摘し」(3点)

※ 「メディア・リテラシーによる批判的態度」によって、「メディアの問題点を指摘する」ことを説明していないものは ✖ 0点。

C 「代案の提案を積み重ねること」(3点)

※ 「メディア・リテラシーによる批判的態度」によって、「代案を考える」ことを説明していないものは ✖ 0点。

D 「メディアも改善されるという」(3点)

※ 要素A・B・Cによつて、メディア側が「改善される」ことを説明していないものは ✖ 0点。

E 「よい循環が生まれるから」(3点)

※ 要素A・B・Cによつて、要素Dになり、それが「よい循環である」ことを説明していないものは ✖ 0点。

三 (古文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 1点×3＝3点

甲 い 乙 は 丙 ふ

「ポイント」

※いずれも正解以外は✕。

甲 ✕ 「あ」「で」「い」で 等

乙 ✕ 「はし」「わ」等

丙 ✕ 「よ」「ふる」「こ」等

問二 2点×3＝6点

X へ Y ハ Z ニ

問三 3点×3＝9点

a イ b ホ c ハ

問四 2点×3＝6点

A (解答例) 2点

物思いに耽る

「ポイント」

※「ながめ」の現代語訳

○ 「物思いに耽る・物思いに沈む・物思いする」等の意があればよい。

○ 「物思いに耽り・物思いに耽って・物思いに耽るの意・物思いに耽るという意味」等でもよい。

D (解答例) 2点

だんだんと

「ポイント」

※ 「やうやう」の現代語訳

○ 「だんだん・徐々に・次第に・少しずつ」等でもよい。

✕ 「ようやく・やっと」や「ゆっくりに・そっと・静かに」は✕。

E (解答例) 2点

そつと

「ポイント」

※「やをら」の現代語訳

○「静かに・おもむろに・そろそろと」でもよい。

△「ゆっくり」は△1点。

✖「だんだん・徐々に・次第に・少しずつ」、「不意に・突然」や、「やおら」のままは✖。

問五 5点×2＝10点

B (5点)

(解答例)

A○2点

B○2点

C○1点

日本では、簫の音を、心ひかれる音だとは思っていないなかつた、ということ。(5点)

「ポイント」

※Cが✖の場合、A・Bは得点できない。

A 「日本では」(2点)

△「日本では」の意がなく「以前は・かつては」等ある場合は△1点。

△「日本では」の意がなく「自国では・我が国では・自分の国では」等がある場合は△1点。

△「日本では」の意がなく「以前は」等と「自国では」等がある場合は△1点。

○「日本では」の意がある場合は、「以前は」等や「自国では」等の有無は不問。

B 「簫の音を、」(2点)

○「簫」は「箏・箏・笛・縦笛」等でもよい○。

▲「楽器」となっている場合は▲1点減点。

▲「音」が「声」となっている場合は▲1点減点。

C 「心ひかれる音だとは思っていないなかつた」(1点)

○「(笛の音が)心ひかれる音とも思っていないなかつた」という内容で○。

○「心ひかれない・親しみが持てない・素晴らしく思えない」等の意があればよい。

C (5点)

(解答例)

A〇3点

B〇2点

管弦の音を立てることを 控えている、ということ。(5点)

「ポイント」

A 管弦の音を立てることを「3点

※Bが✖の場合、Aは得点できない。

○「管弦」は「楽器」でもよい。この意があり、「音」の意もあれば〇3点。

△「管弦・楽器」の意はあるが「音」の意がない場合は△2点。

△「管弦・楽器」の意がなく、「笛」など「管」か「弦」のいずれかの意になっていて、「音」の意がある場合は

△2点。

△「管弦・楽器」の意がなく、「笛」など「管」か「弦」のいずれかの意になっていて、「音」の意がない場合は

△1点。

△「管弦・楽器」の意も、「管」か「弦」のいずれかの意もなく、「音」の意がある場合は△1点。

B 「控えている」(2点)

※Aが✖の場合、Bは得点できない。

○「控える・慎む・自粛する」などの意があれば〇2点。

△右の意がなく、「やめる・とめる」の意がある場合は△1点。

問六 7点×2＝14点

E

(解答例)

A〇2点

B〇1点

C〇1点

D〇1点

言いようもないほどにかぐわしい

梅の香りに、

少将は

その場から出て行くという

E〇2点

気持ちもしないのでは。(7点)

「採点方法」 各要素単独採点。

「ポイント」

A 「言いようもないほどにかぐわしい」(2点)

△「言いようもないほどの」の意があれば△1点。

○「言いようもないほどの」は「表現の方法がないほど・何とも言えない・名状しがたい」等でもよい。

△「かぐわしい」の意があれば△1点。

○「かぐわしい」は「良い・素晴らしい・魅力的な」等でもよい。

B 「梅の香りに、」(1点)

- ✕ 「梅」や「香り」がない場合は✕。
- 「梅」は「梅の花」でもよく、「香り」は「匂い・美しさ」でもよい。

C 「少将は」(1点)

※位置は解答のどこにあってもよい。

D 「その場から出て行く」という(1点)

- 「その場から」の有無は不問。
- 「出て行く」とは「立ち去る・去る・出る・退出する・出発する」等でもよい。
- ✕ 「立つ・立っている」等は✕。

E 「気持ちもしいので、」(2点)

- △ 「気持ちもしい」の意があれば△1点。
- 「気持ち」は「気・気分・心地」等でもよい。
- 右の【1点】があり、文末が「ので・から・ため」になっていれば○2点。

F

(解答例)

A ○2点

B ○2点

C ○1点

D ○2点

笛の音を尋ね、月の光に誘われてここへ来た旨を、少将は言うけれど、女は返事をする(こともない)。(7点)

「採点方法」 各要素単独採点。

- 「笛の音を尋ね、月の光に誘われてここへ来た」の箇所「」が付けられていてもよい。

「ポイント」

A 「笛の音を尋ね、」(2点)

- ✕ 「音」の意がない場合、「音」が「声」となっている場合は✕。
- 「尋ね」は「探し・求め・訪ね」の方へ行き「の方へ来て」等でもよい。

▲ ない場合は▲1点減点。

▲ 「笛」の意がない場合は▲1点減点。

- 「笛」は「簫・箏・縦笛・楽器」でもよし○とする。

B 「月の光に誘われてここへ来た旨を」(2点)

- 「月に誘われて来た旨を・月の誘いで来た」と月に導かれて来たことを「の意があれば○2点。
- 「旨を」は「ことを」と理由を「等でもよい。
- △ 「来た」の意がない場合は△1点。「来た」の対象を表す「女のもとへ」の有無は不問。

C 「少将は言うけれど」(1点)

✖ 「少将は」の意がない場合は✖。

○ 「少将は」のある位置はどこでもよい。

D 「女は返事することもない。」(2点)

△ 「女は」の意がない場合は△1点。

○ 「女は」のある位置はどこでもよい。

○ 少将が「言った」相手として「女に」と書かれていてもよい。

▲ 「女は」は「誰も」では不可。よって、▲1点減点。

○ 「返事をする」は「返答をする・答える・応える」でもよい。

▲ 「返す」は全体から▲1点減点。

問七 1点×2＝2点

ロ・二

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

- a みづから (みずから) b いへども (いへども)
c たまたま d かつて

「採点のポイント」

*歴史的仮名遣いと現代仮名遣いが混ざっている場合は、どちらかに統一する。

×送り仮名の不足は×0点。

例 a × 「みづか」「みづ」など。

b × 「いへど」「いへども」など。

c × 「かつ」。

問二 4点×2＝8点

(解答例) X ハ Y ホ

問三 5点

(解答) 使^三十二^二 県^レ持^レ疏^二 斂^二 之^一 民^一

「採点のポイント」

○完答のみ5点

△送り仮名も施しているものは、送り仮名も正確な場合のみ2点を与える。

「使^{メントスルモ} 三十二^{ラシテ} 県^{シテ} 持^レ 疏^ラ 斂^メ 之^ラ 民^{ヨリ}」

問四 4点×2＝8点

B

A○2点

B○2点

(解答例) 答め立て しようとはしなかった。

「採点のポイント」

- 「わざわざ問い詰めることはしなかった」など可。
- A 「答める」は「問い詰める」「詰問する」「罰する」なども可○。
- B 「すすんでくすることはしない」を「決してくしない」としていても可○とする。
- △ B 「敢えて」を訳さずそのまま「敢えて(あえて)」としてもものは△1点。
- × B 「敢へて」のニュアンスがなく、単に「莫し」だけ訳した、「なかった」のみはB加点点ナシ。

C

A○2点

B○2点

(解答例) すぐれた長官がいるのを 知っていたか。

「採点のポイント」

- × 疑問文でないものは不可×。
- A 「すぐれた」は「優秀な」「秀でた」「有能な」などで○。
- A 「長官」は「県令」「官吏」「役人」も可○。
- B 「知っているのか、いないのか」としても可○。
- B 「知らないか」も可○。

問五 3点×2＝6点

(解答) D ニ E イ

問六 7点

(解答) ニ

(i) 4点

A ○1点

B ○3点

(解答例)

「禍」

朝廷内で、

ひどい悪口を言いふらされた

こと。

〔採点のポイント〕

A 「朝廷内で」(1点)

※ 「朝廷」の「廷」の誤字に注意。

× 「庭」「延」などは×。

B 「ひどい悪口を言いふらされた」(3点)

△ただ「悪口を言われた」「嫌われた」「恨みを買った」などは2点。

○ 「ひどい」などの程度の副詞はなくとも可○。

(ii) 4点

A ○2点

B ○2点

(解答例)

「福」

優秀な人材として名前があげられ

出世した

こと。

〔採点のポイント〕

A 「優秀な人材として名前があげられ」(2点)

① 「優秀な(人材)」に1点。

② 「名前をあげられ」「評価され」「認められ」に1点。

B 「出世した」(2点)

○具体的に「漳州の知事補佐にばってきされた」も抽象的に「出世した」も可○。

以上